

# 人 口

## 平成 23 年推計人口

平成 23 年 10 月 1 日現在の総人口は 184 万 8, 107 人(男 89 万 9, 880 人 女 94 万 8, 227 人)で、前年に比べ 6, 617 人(0. 36%)減少しました。

また、年齢 3 区分別にみると、年少人口(15 歳未満)が総人口に占める割合は 13. 6%、生産年齢人口(15~64 歳)割合は 61. 5%、老年人口(65 歳以上)割合は 24. 3%となっています。平成 22 年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合、生産年齢人口割合がそれぞれ 0. 1 ポイント低下しました。一方老年人口割合は 0. 2 ポイント上昇しました。

## 平成 22 年国勢調査結果

平成 22 年 10 月 1 日現在の総人口は 185 万 4, 724 人(男 90 万 3, 398 人、女 95 万 1, 326 人)で前回調査の平成 17 年に比べ 12, 239 人(0. 7%)減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和 30 年~35 年にわずかに減少したのを除くと、大正 9 年以降増加を続けていましたが、今回減少に転じました。総世帯数は 70 万 4, 607 世帯で、平成 17 年に比べ 2 万 9, 148 世帯(4. 3%)増加しました。

図1 人口・世帯数の推移

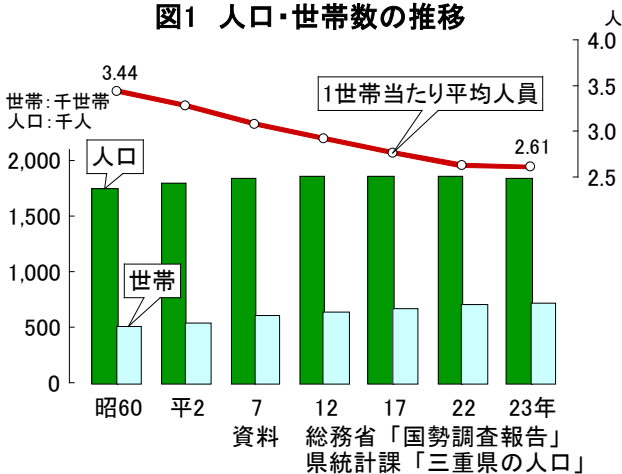


図3 年齢別、男女別構成

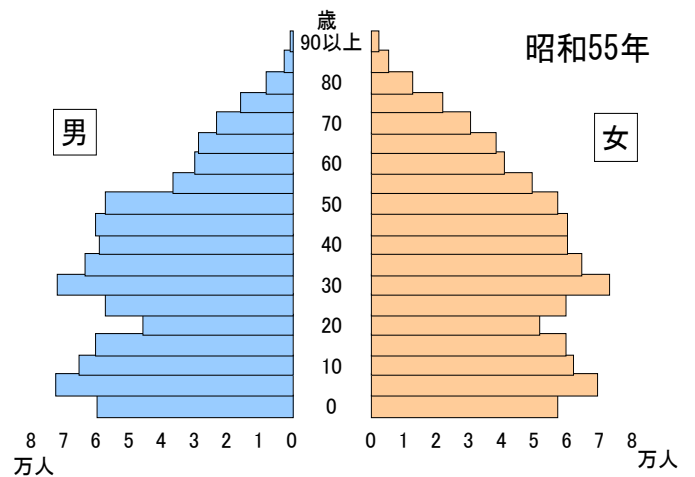
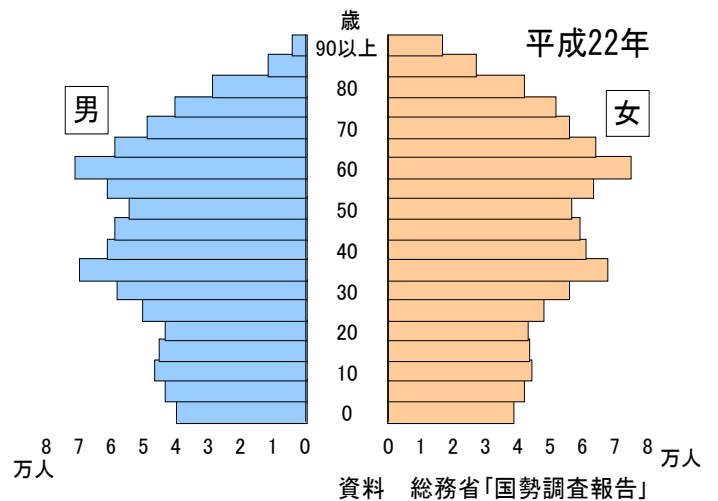
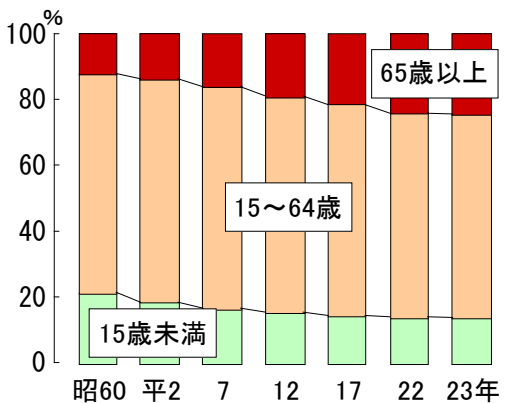


図2 年齢(3区分)別人口割合の推移



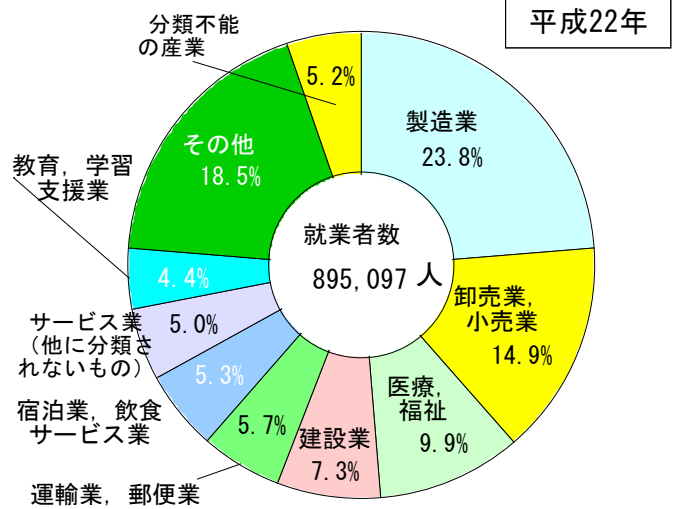
### 産業別就業者数

平成 22 年 10 月 1 日現在（国勢調査）の 15 歳以上の就業者は 89 万 5,097 人で、前回調査の平成 17 年に比べ 2 万 7,525 人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の 21 万 2,856 人（構成比 23.8%）、次いで卸売業、小売業の 13 万 3,343 人（同 14.9%）、医療、福祉の 8 万 8,904 人（同 9.9%）と続いています。

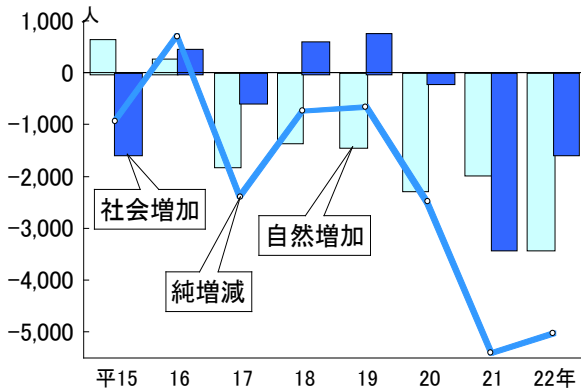
また、産業 3 部門別にみると、第 1 次産業が 3 万 3,016 人（構成比 3.7%）、第 2 次産業が 27 万 8,346 人（同 31.1%）、第 3 次産業が 53 万 6,802 人（同 60.0%）となっています。

図4 産業別就業者



資料 総務省「国勢調査報告」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」厚生労働省「人口動態統計」

### 人口動態

平成 22 年 1 年間の人口動態は、出生 1 万 5,262 人、死亡 1 万 8,691 人、他都道府県からの転入 2 万 7,619 人、他都道府県への転出 2 万 9,211 人となりました。

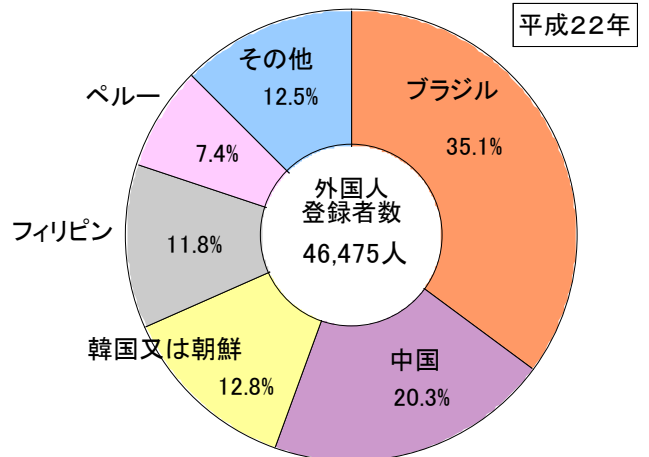
人口動態の推移を自然増加（出生－死亡）と社会増加（県外からの転入－県外への転出）でみると、自然増加数は平成 17 年から 22 年まで 6 年連続減少となりました。社会増加数は平成 18、19 年は転入超過、20 年から 22 年までは転出超過となりました。

純増減数（自然増加数＋社会増加数）をみると、平成 17 年から減少傾向が続いており平成 21、22 年は大きく減少しています。

### 外国人登録者数

平成 22 年 12 月 31 日現在の外国人登録者数は、4 万 6,475 人で前年と比較して 2,612 人（5.3%）減少しました。国別の内訳をみると、ブラジルが 1 万 6,335 人（外国人構成比 35.1%）、中国が 9,454 人（同 20.3%）、韓国又は朝鮮が 5,948 人（同 12.8%）、フィリピンが 5,479 人（同 11.8%）、ペルーが 3,438 人（同 7.4%）などとなっています。

図6 外国人登録者数



資料 法務省「登録外国人統計」